

松栢園七部集

瓢菴乃犬  
日記  
三













人毎に煤の帚と掃るあり 野雀  
柳をさく 鱒の小流に身をまかせ 大蕪  
漣をさく 鳥帽を袖とよせ 五道  
あけ見所よ ゆふゆふ 松の松 左雀  
と良し せきまの啼ゆる波の上 石老  
阿ち那恵のうら 三井の侍 湖風  
月あけ 歳軍の中をたふし 大蘇  
根深に味の出来る 野雀

蜻蛉の宿り 赤き花をさす 士朗  
板戸のころ ぬかのをく 五道  
繁き 男人の上をさす 左雀  
とく 見所 直に 蕪皆 石老  
兼、女をさす ちる ちる 湖風  
相保路 不明 留 二十八日 大蘇







鯉琴心山こころ月の前 桂五

角力の清波流静ありは里 梅間

とくちくちく船漕よはる難波濱 羅城

西く雲能元朝午時迄 葛井

樞の本におも半きまきり苔却る 嵐堂

鳥をふく雪 寺倉飯食焚 天老

碁打免雪雙六くまると二人之 少汝

出略里く雪雲ありけきる 大阜

魚のつくと半山魚く水く進と 方明

火くけの並山膳所能松原 野雀

月見よ雪ありくく山の上 松兄

雁の啼くく雪と雪くく山 真堂

まやく雪残く雪あり山能雲 岳格

くくみの眉能きゆる梅の魚 士朗

村雨雪相明の雪雪苔雪の雪 螢屋

雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪 桂五



猿人の鳥賊の船を著る事  
 梅淵  
 朝の下のくまのくまの橋板  
 羅城  
 喰阿ふる着る雀のうらとては  
 葛井  
 くの習先く見ゆる初霜  
 嵐堂  
 鐘撞く蝦夷の境を中々也  
 天老  
 いはゆる結ふか南書卷文  
 少汝  
 常夏能雪の兼の咲か亭  
 大阜  
 此の阿や免のかくも顔事  
 方明

歌よみりくく〜〜〜  
 五雄  
 箕子子家能並ふ甚戸  
 左雀  
 漁倉等雨能出ぬこと来ふり  
 五道  
 こよふを空の月く〜〜〜  
 大種  
 小袖たむかぬ花も秋の山ド  
 石老  
 標〜〜  
 湖風  
 芦のふた萩も葎毛阿〜〜  
 霜居  
 一時〜〜  
 竹首







山茶むきけりある茶葉賣 野雀

菊をゆきまのきり山 畠 天老

阿弥と見よ雪子かき猫能妻 羅城

冬の上冬みお朝日あや申 梅閒

幸崎の松のあまり能世すえと 石老

ふね能中くきけりけり 松兄

一ゆき嵐冬月とけり 霜居

寝る能程の白ふの葉の香 菖井

心雲の鳴るも神の流る 方明

駕籠のちりき歳あけの隅 大阜

くらくもと懸題目の堂能あ 嵐堂

石より能く流るる干 尤雀

ふふふかきと能く表す 少汝

機嫌よくぬる加茂の官人 士朗

物方とく路よきる楯柁 五雄

風ありくききり 大蘇



燒鮎の佛みやふくは海へ  
 東水  
 在とつさゆーや棺う歌家  
 湖風  
 小娘ふ人の杉も花もつるるま  
 五道  
 ともも恵まきるおまきの向火  
 竹有  
 横むらぬ城の頼も恨〜  
 岳格  
 垣根あきり替々宿新まきの宿  
 椿堂  
 月影ふ舞の梢を杉〜  
 大阜  
 法師も〜雉子能一歌  
 桂五

保元のむ〜  
 松兄  
 云〜歌交度々大笑はま留  
 少汝  
 上〜雨もぬ〜  
 椿堂  
 百合子よ〜海〜  
 羅城  
 目ふさる程ふ小島に羅てり  
 桂五  
 波〜  
 蘭厓  
 ともか〜  
 士朗  
 親あま子ありもの〜  
 全



馬士の如く一板の水に魚の  
折戸を引くくは仙若月  
日教する布田能宮古の末林の  
よの和すはる海苔川の春  
法橋の筆も李白の名を告て  
山葵の志也る三交能雨  
鬼の出る城の峰も出さるる  
よのあゝゝゝ山望自の末  
天志

策呼する鳥羽の所事りふらるる  
遊女能寐言 淀を望きり  
和くきまきの且能者さ向や  
路中の塵よ交海蒲公英  
今事ふく外遠山嶺草能菴  
瓢を擧る事未思人も流  
羅城  
方明  
大阜  
岳格  
少汝  
棋間



菴大集巻之三

春

吾朝をたへくさう櫻の木は百舩 士朗

やさしきおのれをさうさうおのれなり 魚堂

人の心をさうさうさうさうさうさうさう 露城

旅人よたれはさうさうさうさうさうさうさう 卓池

よさうさうさうさうさうさうさうさう

めづらしきさうさうさうさうさうさうさう 少洲



蘇耆山のかりつく蒼山諸系 大阜  
山さく良木まり山あつもの白うね 聖雀  
屋浦さる花面白きほとせぬよりり 五道  
世の山年く高く見け里 左雀  
とるは風ちくきき世よ人古路 全  
もえていぢーやく風ふ子供系 野秀

花下飲

りふーぬま本逢月と意 学人

大堰川ゆるるそむ子鳥ぶる花 月居  
もの上の兼あり月のあり山 龜梁  
らしてこそそふもきけ月の影 湖風  
花咲きすあをく 松花散り花 華涯  
一子夜ま〜け〜

とせま子はあはのそえる便が 宇洋  
はなの山はそ〜酒とさるまが 砂文  
吾さく〜んそぬ。嵯峨山家小山家 蒼乳



蘆の屋々鄰々もつてもおあがり 干當  
呼續の濱より人あつて落りて見 吐牛

小庭のうらゑは腹おろしき

郊ふふ吟あつて

この美しき——いふまゝのむねを急 葉屋

葉おろすのまゝのむねを急 木窓

あつてもよきまはるは 雨来

草木のまのまゝつくりぬれやうら 青松

まゝの美のあつて——あつて 志賀の里 法樹

晴月あり乃夕々れは杉村のいふまゝを  
すまぬ杉の生垣ありあつてあつて  
このも——地蔵庵あり正月乃あつて  
いふまゝ——きつてやえまゝとら出たり

せりすれは又世齋うつてあつて 月と梅 士朗

みやあつてのあつて

大佛みよををり見よはまゝあつて 全

うらまゝあつてのあつて——あつて 真葉

あつてあつて——あつて 五香



湖上

雪のち葉もさくさくおちてゆく 大藏

うららかな中をけしきや東山 五来

梅の香ささる

風のこころしきよきよ

吹かすまじき

雪が折戸に雪が降る竹亭 由登

宇多のまやこころの空也す 雲帯

世の葉を先降るは小雪の 天光

まろやかな木の實もさくさく海の色 乙二

乙未肉の山もさくさく雨 石老

さか雨のちりさき見よ浪連 可考

まろ目の日暮ありさく春の月 免門

信里やまの月さく葉底 自樂

さか月の明ゆく空のあざ 方明

さか水もさくさく風のちり 桂五

飛こえる水もさくさく風 丈九



春風やきりの初先ハ隅田川 湖風

六条の御堂ふききりありぬ  
遷佛の作法ハ毒のさき哉  
山崎ふりつとく月のさき出る  
こゝろのなつとく西方の蓮花を  
まふらんしきりふききり化益  
しきりふりつとく作法をさき  
半そとあはれりしきり

花よりたこやきりしきのさき  
心ふくしきりしきりしきり  
伊勢浦や清の中よりしきり  
佳長 春蟻

しきりしきりしきりしきり  
物さかたしきりしきりしきり  
まきりしきりしきりしきり  
意極や蝶しきりしきりしきり  
須磨の浦しきり

鳴しきりしきりしきりしきり  
山甲やねんえしきりしきり  
しきりしきりしきりしきり  
栗大 大蕪 五雄



とらふの釋

夢のうらみはさかあや  
あはれ

狸辯もあくう雉子鳴やうい 霜居

清い山はけも雉子鳴林鹿のふ 秋國

蚤のあささくしらす事あり猫の窓 希言

夢 想

形れ冬を侍多幾友よまはる 野雀

かく書て人よあまくはれ

もさより月夢 七月しあを

人のほけきり  
あはれえりるさあぬ

まみくはる車 向きなる心はる 九峯

ひささきそくきくおふゆふく 魯隱

ゆくまのふさきさくふん小世 左雀

ゆふ多秋をおもくうりて春うり 魯堂

青柳のまきも 鶴のふ 黄山

はま柳の朝ふ葉のふ輝りあふる 雄滝



ついでに梅あつゝ滴しそ

周瑞

大空にまよふ満きぬやあさうき

芳之

新人のあふまふ能柳うき

松元

柳先まきししう終る伊勢の春

椿堂

月うきそのもく物能木の旨は

推己

こりて能おぬしし白梅のこ

野雀

山里の人しそよきさるえのき

嵐堂

人のあふちまは棟さう中は

葛井

白くえ能七雨さあし月あは 許風

梅を〜能人あふしと梅のこ 大蘇

笠寺あは

笠寺あは〜い寺あは梅のこ 梅間

あさく島あはし〜も梅の花 少女



茶室大集巻之四

月夢法心て白くものちるに杜宇

騏六

昔城や雨のそよよる野

野雀

流きく若葉をこころの魂

桂五

かきくまの啼くおもしろ夏の日

嵐外

不如帰四月八日夢をみる

孔阜

此月よりあつたるにちる

硯静



信濃の寧園の庵と白紙紙  
関と名つけし發白き猿人と  
通きけりてさうしるふ

門名は〜書つゝ

関方と誰と可くおとまは 羅城

保登く美原初瀬の鐘の人の撞 九雀

ゆり〜成る所さうえよ郎公 吐牛

家里の神よ佛とち〜寸 魚堂

うねも無おつ〜せさもあぬ 加津

猿人の筆見〜啼く保とまは 文松

杜鵑志〜冬も此世あ〜ぬ 大阜

籍の心冊焚ゆに竹結〜鹿の事 雲伯

かく〜まを〜いぬ〜又ゆ〜籍ゆに 莫二

筆〜まの〜阿〜籍法〜ゆやし 李閣

傘のち〜〜子制〜り友の月 卓池

い先〜人の聲〜あ李〜夏〜の月 里祐

筆ゆ〜〜ぬるふ短ふおあり危 窓巴



ま〜風よし〜ゆ〜く〜り〜る〜  
大菴  
松〜けを掃〜き涼〜き風〜き  
葛井  
月〜も目もす〜き松の林〜那  
梅淵  
草木〜らふ題〜

有明〜あ〜る〜涼〜お〜り〜あ〜い  
蕉雨  
涼〜〜きと松よ出〜く〜つ〜崖〜か  
ゆ〜を  
五十鈴川よて

か〜き〜ら〜る〜ま〜き〜道〜  
野雀

ま〜〜ま〜月と見〜る竹の上 全  
ま〜よ〜し〜ゆ〜涼〜き〜ゆ〜ぬ〜こ〜る〜雨  
岳輅  
五月雨〜や〜え〜る〜屋根〜ほ〜る〜鴉〜か  
士朗  
白鷺〜能〜山〜ふ〜舞〜ひ〜ゆ〜く〜皐〜月〜系  
景山  
ま〜る〜雨〜の〜き〜み〜ま〜き〜秋〜の〜と〜く〜ま〜き〜落〜  
可都里  
新〜阿〜耆〜る〜程〜花〜ち〜ら〜ふ〜虫〜の〜形  
武陵  
蟬〜ち〜や〜松〜の〜は〜ら〜う〜雪〜山〜石〜川  
存古  
あ〜け〜や〜ま〜い〜お〜を〜り〜舟〜の〜つ〜ら〜  
竹有







あきくさき園庭持り草枕

文兆

桧雀亭

危角くそ夕早くくくく

五道

咲きくく目くくく

五明

くくくくくくくく

士朗

近よきく二木くあり

蘭叟

唐太集巻々々

初月や程くく並ふ山の形

吐丈

三日くく能く見ゆる山家く

岷山

月字の月ふちのくく小家

桧雀

盆の月静くくくく

全

来る人可くくくく

石老

月可くく松雲あはハ月若く南

桂五



き満し能く名もあふらりよの月 椿堂

いづえしや若殿のま種あふきあけ月 巾着

山阿しきりき拂はん月能く 蛙聞

きけく昔く我目の若く事 湖風

遠小月若くありきりよの月 仙市

東方を山つ道みけふ能く月 石老

山よ寝る方あり安く是秋の月 斗入

松柏月冬先見ると増りし歌 五道

故里や雪ふ木くみく松の月 巨鶴

健つくはまをいそ月能く九月の歌 六車

祓ても覚ても蘆原の月六漏下危 李臺

須磨の月は上み秋きこりあ歌 蝸國

十六歌

こ神まをみ心寄きそ月の出ま望 大阜

蛙聞亭の歌

青み鳴鳥の空くささるの歌 士朗



白のうける所々花をまの連う那 大蘇

暮秋さるる花のうら葉

見守るとよ〜四のう葉か

うけい

世にまよひてはく〜のうら葉か 方明

世に義士すあ〜

世に義士すあ〜のうら葉か 羅城

あき風のうら〜のうら葉か 一々

秋風うらのうら〜のうら葉か 素祭

あき風のうら〜のうら葉か 加津

松葉正秋琴韻響

あき風のうら〜のうら葉か 五雄

あき風のうら〜のうら葉か 港武

あき風のうら〜のうら葉か ゆき

あき風のうら〜のうら葉か 八峯

題美人圖

あき風のうら〜のうら葉か 眞堂



月の出るまゝは蘇える世の那 大蘊

述懐

萩も歳暮よる後、杉もしく  
宵く無月もあり、まはれ  
りむりふ方より萩の新きあり 大魯  
舊りゆきも、おくる旅の  
かりぬや雪吹拂ふ風能上 其静  
鴨堂のや阿の先も、あまの松の影 草龍

矢田の望

鴨堂も程あしく月も出るり 應汀  
若くもゆるき起す秋のおきよけ 大蘊

現山

少くも山も松の根鹿の七 少汝  
吹おくる風の中まはれ 礎の奈 五道  
この頃か雨や月もまはれ 阿高  
松を見ても、まはれ、秋 桂五



と山秋やまのうきしはしき蟻のる  
松尾

と山く君を佛も持来と朝の秋  
栞庄

天の川紅の漁も記ふけ里  
士朗

とくや何あし中下とと  
石老

と山男道も赤面白し松の露  
文淵

朝もあし能あも引鳴子ふ  
卓池

もさあけと茶のあしある暗き  
左雀

松風も古く路をきる柚味も  
来山

寒くある葉落のもあつた  
升六

朝もあもあよさく赤は折戸  
道彦

醒る井とるる時肩鞆くら

くしを馬もさるるうらうら  
あまのめくやとるるよとら山

醒る井のあふれくむ朝一の菊  
東水

立並ふ松の上も秋のう終  
帯棟

秋の暮と百羅漢の埃く都  
宇曲

と山葉やあつたうらぬ葉山家  
兼庄



菊能香や泣きみ控まると言の売 岳格

田家

秋の日は蠅も穉も小膝若上 楳間

尾末と末末と云

冬

かゝ扉あけき雪掃屋敷の 岳格

お出の儀よりかゝ葉せし頃

心〜〜もつと神よんか門 方明

〜〜もや花より心〜 松尾 士朗

初雪や踏山能きりの鼻うよと 米倉

〜〜も〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
天竺氏少女 海人







岐嶺道中

時雨三月月くく被るるるう啼

野雀

幻住庵より

まろくや三井寺鐘瀨田の橋

硯静

時雨も土おくる羽の田乃系

少汝

山あうら月影さくく時雨危

桐栖

きみふくく時雨まきく小田の鶴

汝葉

山如や七日くく鶴の聲

羅城

不破関より

木くくく能舟お落るる雀の那

五道

風のくくくゆく葉家く南

里洞

木枯の雲お二重や雲の月

了國

あくくくの散小百舌啼夕見

雨節

一と於水くくく亦亦

木枯能四方子阿葉崩栖の家

大阜

月おそくく竹の林お啼ふる

左雀



宵に能波を河に流し鳴らるる 天老

夜泊

松のまきり 須磨よ啼きし里 木容

きれいそくも 赤水青城の鴨 雨曉

水鳥やたしあうりも 塔の海 五道

くもれきき 吹流ける小家り 梁臺

月よあふも 鴨の身そわの門田 有磯

すしそ風も 枯葉の夕舟 巾着

那ふ出さす 忍ぶも 尾意の枯初る 李園

引たり 瀬あさ 芦のたか 標堂

かきやそ 人の見そ 枯る柳の舟 行外

寄舎

阿ふも 赤木 寂意の友よ 鉢鼓 士朗

傾城 琴 泣き 心あふり 鉢鼓 岷屋

人のまきり 赤木 鉢鼓 巨峰

飛鳥の男 あり 鉢鼓 朽由



寒月や大毛もつる 門柱 岷山  
 雪月やかくて 山直浪の上 東水  
 稻穂のそと ぬる月のおふ 眞堂  
 老の浪の左へ 歌おや 弼代寺 意逸  
 折るく 糸おも ころと 楯太心 梵阿  
 炭竈や 筏をとくたす 老ゆりま 巢北  
 多田寺に 秋を 泣くま 冬 筆重 長齋  
 海曲のを 玉やうこ 冬の雨 玉洋

冬木立やう ぶく 小おふ 非如

見やるさく 猿人 山をく 葉家  
 けや ぬほの 記  
 一 女も 中や ね

袖あつく ね葉の 葉の ねの 南 松兄  
 心と 堀ふ ちき 海の 根 芽の 逸虎  
 大根 曳の ちく 葉の 白り 素高  
 冬十日 ほの ちく ねの 巾 蘭水



散步

大のふれぬ藪ももろの山まふ  
 梅開  
 松風と曉の音やうけぬ  
 玉屑  
 海を望むと思ふ日かゆる師を  
 可笑  
 控鐘の鳴や師走に市の中  
 庭甫  
 けふはあまの山家  
 士朗  
 年々一むすも一日の暦うけ  
 山臯  
 煤掃と世話のうけ鳴鳥の那  
 業彦

野雀

享味三亥年

五道同輯

大北嶺



婦人通日記

伊勢からふり新編し

孔阜亭と詠ふ

玉垣やまゝふりてまき其木立 士朗

月行三人まゝとて并て寝ぬ

夜ハ五更中もやと月望て



戸破て思れも存きらくや

出しのつらむ

一 束解くようたるお存存哉 岳路

あしし能見する白姑らふ

くふまもも雁ハ新あり更衣 孔鼻

白ふふも

い勢海を所不新櫻も初松魚 松兄

洞水津少き

高玉のうほふはさく色も斐如盤 全

杜影といふ人あふさくあや

共角山川く交ふ他て莫逆如

情は程く染上よあふらふ

そふよゆきさきふ葉面す今

骨ハ多し津の里喜川亭 尔







来て色中一の口号とて思ふ

鶯能老を慰えと啼すめ 普川

秋宮ふらふ

家ふらふとて思ふとありて思ふ 全

宮中

神路山をいさへて 推已

ふらふとて思ふとありて思ふ

西行若

道はこゝの鶏もきてある 椿堂

世儀もよおす

松風如吹よはらへとも 立 士朗

宗古鳥のまきくさる馬の上 普川

松風やんかの洞小やら 椿堂

夕存よ田植の跡る山あう 可望







西を抄る人もうへにありいさか  
士朗

引よきて抽のまを折空浦うも  
椿堂

蒼堂ふるまわりて書取法海

あをを吊る

阿あやの堂ふもや昔如系  
推已

水音ハやむもよはし  
孔阜

佛のまゝ人にも  
岳轄

雲陽をれ一枝ききぬ堂のみ  
青川

念佛如米噓やう  
士朗

寛乃山了  
椿堂

夕久洲小来る人ハ  
松兄

笠如紐とく  
孔阜



飛鳥〜舟小落おむ秋の風 推已

敏とあ〜く〜遊ふお死〜 青川

門口の通〜色ぬ程本御持〜 可望

形と〜うけつ〜雨のや〜まは 岳轍

所ふお〜ふ衣と人ふら〜せり 椿堂

妻の麻〜おむつ〜ま〜お 士朗

倒と休井も〜の〜物〜 孔鼻

や〜お用と〜毛走〜お山里 松兄

井戸おあを〜お根の傍お〜り 青川

雁の〜の〜お記き〜お存 推已

と〜お花の〜おき〜お皆ふし 岳轍

雛の〜〜おお髪洗ふ〜お利 可望

健と〜お陵の〜お口〜お 朗

お〜お屋の〜お際〜お漏桶 堂



誰やらう君を呼ぶやれ鳥の啼  
二葉の牛房ぬきとるさう  
あ四と斗波の年へあつて  
志うとつれい東ふよあむいそあ  
まふる柏の音あもえくふ  
と食ふうせる。松のあお下  
半ふは酒屋はうりの立所と  
堂 輜 望 川 巳 阜 兄

丸太えーらと折ふ砂川  
蘇す起有河を半けの感あ  
赤解の糊若ぬりね 肆  
新夏の豆屋あふく 賣ふる  
暮あをとめる信樂の若  
あつるねーくあまの啼雀  
はあまの馬あ皆 丁  
望 輜 巳 川 兄 阜 朗



神もた免し〜もの小派なけ  
朗  
皆もたよあるまき押のり  
堂  
そよのなる流の末明の曙了  
兄  
し〜もき〜ぬもきぬるむせし  
阜

此記行ハるまの白を松見岳轄々流の瓢小  
あ〜いり記ありあるまあり孔岸推己喜川等  
流をふり〜し〜と〜婦文通の記〜と  
名記を〜記



